

『進学事典応援号』のワークシートで
志望理由書作成へのステップを容易に
宮崎・県立延岡星雲高校

宮崎県立延岡星雲高校は今年度10周年を迎えた。少人数学習で難関大学合格を目指すフロンティア科を設置するなど学力向上に力を入れ、キャリア教育も推進。また部活動や行事、ボランティア活動などにも力を入れている。

2年生3学期は
実施のベストタイミング

同校では1年生からの小論文指導に力を入れている。国語科の先生方が計画を立て、月1回、総合的な学習の時間や土曜講座を使って担任が指導。1昨年までは、その集大成として3年生で初めて志望理由書に取り組んできた。昨年度は、2年生の2月に生徒に学校研究のための『進学事典応援号』を配付。付録として『適性検査を受け、3月に結果を返却すると同時に「自分に合った進学先の選び方」をテーマにリクルートによる講演を実施した。講演では志望理由書とはどのようなものか、またどのように書くのがよいのかも触れられており、生徒は講演後『進学事典応援号』の付録のワークシート「志望理由書を書く準備をしよう」に取り組んだ。このワークシートは、適性検査の結果もふまえず、自分の強みや長所を記入。そして、志望動機や入学後に身につけたい力などを記入する流れになっている。

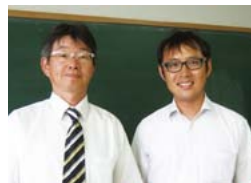
オリジナルワークシート

「将来の夢の実現に向けて」

将来の夢、第3志望校までの研究や保護者の意見、進路実現へ向けての努力事項などを書き込む。

「第一志望(校)決意書」

生徒は志望理由やセンター試験の目標点、この夏の努力ポイントなどを記入し、先生の前で決意表明を読み上げる。



進路指導主事 森 伸一先生(左) 進路指導部 黒木善幸先生(右)

「書く作業を通じて国語力を高めていきたい」(森先生)
「なぜこの学校を希望するのか。もっと生徒と踏み込んで話したい」(黒木先生)

「2年生のうちに志望理由書対策のプログラムに取り組めたのは、生徒にとっても教員にとっても非常に意味のあることでした。講演で行きたい大学のどこに着目するべきかや、自分の言葉で書くことの重要性を語ってもらったので生徒もそれをふまえてスムーズに書き始められたと思います」と言うのは、進路指導部の黒木善幸先生だ。

で実践していましたが、これをやるのが夏の過ごし方が充実します」と言う。
進路への思いや決意をアウトプットさせる

黒木先生は、早い段階でしっかりと志望校合格への意識が固まるよう、3年生の4月に自身が担任を務めるクラスで生徒にオリジナルのワークシート「将来の夢の実現に向けて」を配付。『進学事典応援号』などを参考に第3志望校までについて調べたことを記入し、それについての保護者の意見や、具体的な努力事項も書く欄を設けた。この2年生2月からの流れにより、3年生の7月の面談もこれまでになくスムーズになり、進路実現へ向けての具体策を話し合うことができたと言う。

「昨年度はベストな時期に志望理由書の準備に入れたと思います」と森先生。「2月、3月に適性検査、進路講演、ワークシートに取り組んだことにより、3年生のスタートがワンステップもツーステップも早まった気がします」というのは黒木先生だ。なお、適性検査はもっと早い時期のほうが効果的ではないかという意見があり、来年度は2年生の初めに実施することを想定している。

(取材文/永井ミカ)

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト:リクルート進学総研>>キャリアガイダンス>>発行メディアのご紹介>>クラス担任のためのキャリアガイダンスvol.24

